

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500314		
法人名	有限会社 スバル		
事業所名	グループホーム太陽	ユニット名	
所在地	宮城県大崎市古川中里2丁目7-1		
自己評価作成日	平成23年6月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の状態に合わせて、外気浴、日光浴、散歩を積極的に取り入れている。
可能な限り居宅での生活延長が出来るようにしている。家での笑顔をだして頂く為に生活リハビリを通して毎日の散歩、買い物、畑作り等を行い、ひとりひとりに細かな事で心を込めて対応するようにしています。
地域の行事への積極的な参加(運動会、お祭り等)を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古川駅から徒歩で5分の街中にある。開設時から地域の人々との交流を積極的に進め、グループホームの運営をオープンにしつつ、地域のひとり暮らしの高齢者への声掛け、お茶のみへの誘いなど相互に関わろうと努めている。東日本大震災時には訓練と共に日頃の交流の成果で、入居者、地域の高齢者が互いに助け合い、笑い顔も見られたという。また、看護師の配置、協力医による毎月の往診等の医療支援は、入居者、家族にとって心強い体制であり、看取りも数例経験している。管理者、職員は最後までその人らしく支援して見送れたことを通して「怖れ」ではなく、「守られている」と感じる事が多いと話していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム太陽**)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングやカンファレンス、日々のケアでの実践時、職員ととの話し合いの場を設け、折に触れ理念を共有・具体化している。	毎年ホームの理念について話し合い、現状を振り返り確認をしている。今年度は新しく「寄り添う介護」を付加入居者のレベルに合わせ、ゆっくり、のんびり、一緒に安心して過ごせるケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設当初より町内会に加入し、回覧板が回ってきており、運動会・地域の神社祭等に参加させていただいている。年2回ごみ当番に加わっている。 消防訓練等参加して頂いている。	区長、民生委員、近所の人々に見守られ、職員も散歩時、お茶のみを誘い、地域のお年寄りも玄関前でひなたぼっこに加わる等相互に交流している。ハーモニカ、マンドリンの演奏等での訪問もあり喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒にゴミ出しや、回覧板を届けるなど、地域の人々とふれあう機会を設ける様努力しており、会議等で気軽に立ち寄れるお茶のみ場にする声かけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と一緒にゴミ出しや、回覧板を届けるなど、地域の人々とふれあう機会を設ける様努力しており、会議等で気軽に立ち寄れるお茶のみ場にする声かけをしている。	3月にも運営推進委員に促されて6回開催し、行政の参加は4回である。地域のひとり暮らしの方への対応やホームでの困難事例を報告し助言を得ている。スタッフの言葉づかいの注意等共に育てる姿勢が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者や、運営推進会議への参加者(高齢介護課)と協力関係があり、話し合いや、相談の機会をもっている。	東日本大震災以後、市からの依頼で2名を緊急に受け入れた。ホームへの介護等問い合わせも多く、相互の連携に努め、現在はスプリンクラーの設置等助言を得て、管理者は婦人会に研修講師として出掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠をせず、利用者が自由に活動できる様見守り、全職員が身体拘束とリスクマネジメントとの関係性を理解し取り組んでいる。	身体拘束の事例はない。不適切な言葉掛けについて職員間で気付きの都度話し合い、申し送りして共有している。「家に帰る」と出掛けた際は本人が納得するまで長時間寄り添い同行しており、地域の人とも電話などで知らせてくれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、ミーティングなどで、虐待についての理解を深め、利用者の立場に立って考える事を大切にし、虐待につながらないようなケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所時や日々のケアの中において、その利用者が活用されている制度の説明をし、関係機関と相談し個々の必要に応じ制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退去時に家族との面談を実施し、十分な話し合いを行い、必要書類を用い説明をしている。契約時にはホームのケアに対する考え方や取り組み、退去も含めた説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い時や面会の時等、入居者との日々の会話や行動から感じ取り、カンファレンスやそのつど報告し、希望があれば実施している。	家族の要望意見は少ない。ホームでは面会時や電話で様子を伝え、変化が見られたらその都度家族に報告、相談し対応している。食事作りでも素材を見せ、調理を相談し、暮らしの中で本人の満足に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個人面談で、職員の意見や提案を聞く様、機会を設け反映させている。	個人面談の際は「貴女が目指す介護」等テーマを決め実施し、職員の意見、提案を運営に反映させている。食事の際手作りの足置きで姿勢を保持することや車椅子か手引き支援等、日々のケアにも意見を活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、給与昇給し、職員の努力を認め、学習しながら向上心を持てる様な職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、その人にあった研修会への参加や所内研修での介護力向上に努め、評価を行っている。資格試験のサポートや、積極的に外部の研修に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修において同業者と交流する機会を設けネットワークづくりや他事業所での取り組みについて学習し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴しながら、言葉にできない思いをくみとるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接を大事にし、家族が希望するケアが出来る様な支援に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる事できない事の情報を集め、今すべきサービスを考え、不自由に過ごすことがないように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人格を尊重しながら家族のように思い、日々の暮らしの中で分からない事は利用者に教えてもらい、役立てながら共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の質問意見にきちんと対応しながら利用者の状態をお伝えし、安心してもらえるようなケアを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活習慣を大事にし、家族とも相談しながら理美容店や外食等の協力を得る様努めている。	自宅への外泊や盆、正月に家に出掛ける、震災後に自宅の様子を見に行く、親族との最後のお別れなど家族との絆を大切に、地域の理、美容院、買い物など馴染みの場への関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や食卓での様子から、必要時には仲介しながら皆で会話されたり、協力してひとつの作業に取り組んでもらえる様支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了後もいつでも来所していただけるような環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を十分に把握し、日常の生活において本人の思いや希望を聞き、ご本人らしく生活していただけるようにしている。 御家族からの情報収集なども行っている。	居室やリビングで話される思いを共有し、支援する際には本人の意思を確認している。 車椅子で入居の方の歩きたい思いを把握し、全身で支え手を引きゆっくりと歩を進めている。話せなくとも顔を大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用時に自宅へ訪問をしご本人や御家族関係者から聴き取るようにしている。 利用後、折に触れご本人や御家族にどんな生活をしていたのか聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとりひとりの生活リズムを把握する。出来ないことよりもできることに注目し、現状の把握、残存機能の見極めを生かしたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向を尊重しながら、スタッフ全員が日々のケアのかかわりの中で把握した課題に対する意見を持ち寄り、定期的にも状況が変わった場合の見直しをしている。	月毎に職員全員で心身、暮らしぶりの変化について記し、それらを総括して会議で検討し作成している。糖尿病の人には歩く機会を多く、寝たきりにしない、水分摂取をより多くなど、変化を把握し反映し家族に渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に生活の様子、健康状況を記入し、細かな情報でも申し送り、情報を共有し実践や介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に添って、散歩や買い物、その時々に必要な事は柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事に参加したり、普段から買物・散歩などで気に掛けて下さり、声がけしていただいたりボランティア・警察・消防との協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医療機関を受診できるようにしながら、協力医の月1度の往診があり細かい変化のある場合すぐ対応して頂いている。	協力医に7名、かかりつけ医に2名が受診しており、希望の医療機関への受診である。家族が同行の際はバイタル等を情報として渡し、受診後通院報告書に記し、家族のサインをもらっている。医療連携体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(非常勤)を配置し、協力病院の看護師と気軽に相談できる関係が出来ており、連携が密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の経過や治療についても、医療機関や家族と情報交換しながら話し合いの場を設け対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を早い段階から聞き、具体的に検討を必要とする時期には、家族がかかりつけ医・病院と話し合いを行い、方針を全スタッフで統一している。	重要事項説明書にも「看とり介護について」文書化し看とり例もある。同意書については、段階に入ってからとしているが、家族、職員、医療機関と話し合いを重ね、最後は家族で見送る、関係者には平服で出入りしてもらうなど経験上の配慮も見られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応し、会議時等、随時訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、非難訓練を年2回実施。非常用食材を準備している。	避難訓練は夜間想定で実施し、地域、運営推進委員の参加も得ている。大震災では地域の人々の支援や職員の素早い対応等実践に活かされ、入居者も動揺なく過ごせたが、救命講習会への参加が未実施である。	消防機関による「救急救命講習会」の開催が開催されず、取り組み目標であった事故発生時の応急手当、初期対応の訓練が未実施なので取り組むとしており、期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し、言葉づかいや対応などに敬意を払い対応している。	職員は「自分の親だったらとして勉強させてもらっている」と話したが、言葉づかい、物腰も丁寧で優しい。性格、サイン等にも留意し、他に気付かれず、さりげない対応に努めている。個人記録の表示はA室、B室としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で決めたことを押し付けるような事はせず、利用者様が何をしたいか聞き入れ、その人らしい生活ができる様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、ひとりひとりの体調に配慮しながらその人らしい生活が送れるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院への外出を支援しながら、ご本人の要望に添った対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・調理・食事のあとかたづけなど、利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。メニューを工夫し、行事食を取り入れている。	変わりご飯、芋類が好き、肉は嫌い等、好みを知り、日曜日に職員が献立を作る。入居者が自分のできることを一緒に行う中で、「皆で作るとおいしいね」「洗うから下げて来て」の言葉も交される。楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分・摂取のチェックを記録しながら協力病院の助言も受けながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。職員は見守り、必要に応じて介助し清潔保持に努めている。協力病院による歯科往診を週1回受け、助言指導を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切な個別誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。 リハビリから布パンへ変えたり、自立に向けた支援を行っている。	おむつを使用しての入居でも、様子を見て、パターンを把握し、職員同士で話し合い段階を経た布パンツへの移行例もある。栄養士の助言で乳製品、野菜を多く取り入れ、排泄にも配慮し好きな飲料で水分補給をしている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜を多くし、バランスの良い食事に行っている。 毎日の散歩、水分量の摂取の把握をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人に合わせた入浴支援をしている。 入浴を拒む人には言葉かけや対応の工夫、職員の連携を取るなどしている。	浴室のスペースが広く、浴槽の設置も両側からの支援しやすい。明るく風通しのよい作りである。日曜日を除き毎日入浴ができるが、入りたがらずマイタオル、好きな香りのシャンプー等を家族が工夫し持参してくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者1人1人の睡眠のパターンを把握し、照明の工夫をしたり足元灯の利用等で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎にお薬表を作成し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会・年中行事等で役割分担して頂き、日々畑仕事や縫い物・料理等を一緒にして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出かけられる様にしており、季節の花や近所廻りのコースを定めている。 食材の買物、定期的に床屋さんに出かけられたり、地域の方々の協力を受けながら支援させて頂いている。	「古川まつり」、お神楽見物、初詣等地域での季節行事に出掛け、あやめ、ひまわり、彼岸花と情報を集めてドライブがてら見物に行っている。自宅訪問、外食、外泊、馴染みの理、美容院など希望の外出にも家族の協力を得て支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額でも自己管理されている方はいる。施設で食材の買い物等は手伝っていただき、ひとりひとりがレジを通ってお金を使っただけのようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はいませんが、御家族のご理解のもとであれば、いつでも電話できる支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族的な雰囲気づくりに配慮している。コタツを配置したり、正月飾りやひな人形を飾る等、季節感を取り入れている。リビングから見えるよう花を植えたり、入居者が心地よく過ごせるよう努めている。	日射しと共に風通しもよく、清潔な共用空間である。1階の中央部にリビング、台所があり、好きな場所で職員と会話したり、読書を楽しむ様子が見られた。あやめ見物時の写真や折り紙を飾り七夕飾りに名前、願い事を書いて吊るすなど季節感への配慮もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にベンチを置いたり椅子を置くなどして、気のあった利用者同士お話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者には入居される前から使用されていたなじみのある物や、好みの物を持参していただいている。家族の写真や手紙など飾られている。	身体状況に配慮し、和室、洋室が提供されている。這って進む人の部屋はスペースを広げ、衣類等季節毎に各家族が入れ替え支援している。小箆箆、座卓、椅子、テレビ等使い慣れた品を持ち込み自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すり、部屋の場所を忘れる事がある方は入り口に、本人の分かるものを飾ったりしている。		